

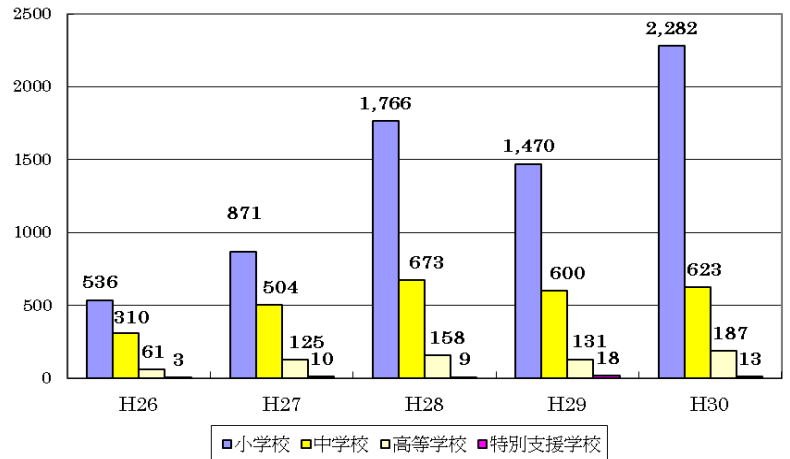
# 平成 30 年度 公立小中学校及び県立高等学校・特別支援学校におけるいじめの状況等

## 1 概要 (図1・表1参照)

- 平成 30 年度の公立小中学校及び県立高等学校・特別支援学校におけるいじめの認知件数は 3,105 件で、平成 29 年度と比較すると 886 件増加。
- 校種別の認知件数は、小学校 2,282 件、中学校 623 件、高等学校 187 件、特別支援学校 13 件で、平成 29 年度と比較すると、小学校・中学校・高等学校で増加し、特別支援学校は 5 件減少。
- 1,000 人あたりのいじめ認知件数は 17.1 件で、平成 29 年度と比較すると 5.1 件増加。

(図1) いじめの認知件数の推移

(単位: 件)

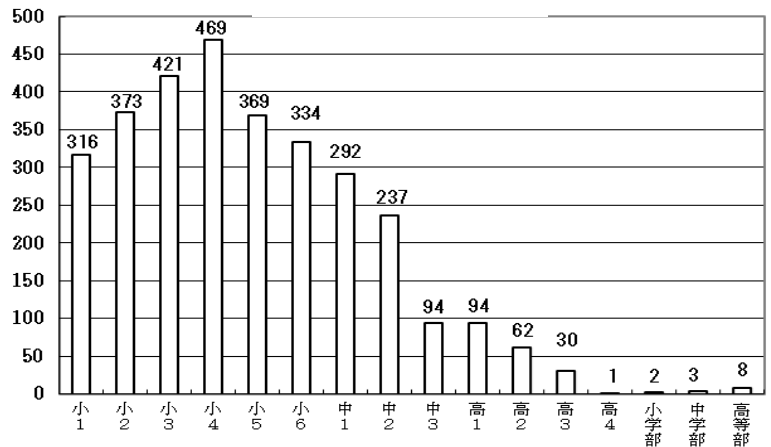


## 2 学年別認知件数 (図2参照)

- 学年別では小学 4 年生が 469 件で最も多く、次いで小学 3 年生 421 件、小学 2 年生 373 件、小学 5 年生が 369 件の順。

(図2) 平成 30 年度学年別認知件数

(単位: 件)



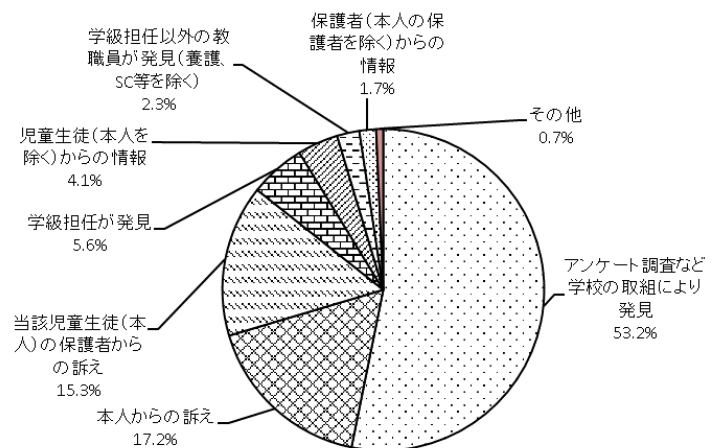
## 3 いじめの解消状況 (表2参照)

- 全体で、2,423 件 (78.0%) が解消。
- 校種別では、小学校 1,766 件 (77.4%)、中学校 491 件 (78.8%)、高等学校 154 件 (82.4%)、特別支援学校 12 件 (92.3%) が解消。

## 4 いじめ発見のきっかけ (図3・表3参照)

- 公立小中学校及び県立高等学校では、最も多い発見のきっかけは、「アンケート調査など学校の取組により発見した」(小学校 1,352 件、中学校 232 件、高等学校 64 件)。
- 特別支援学校では、最も多い発見のきっかけは、「本人からの訴え」(特別支援学校 5 件)。

(図3) いじめ発見のきっかけ (全校種)



## 5 いじめの態様 (複数回答: 表4参照)

- 全校種ともに「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。」が最も多く、認知件数に占める割合は 56.1%。
- 「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。」の認知件数に占める割合は 4.3%で、平成 29 年度 (4.7%) と比較すると 0.4 ポイント減少しているが、件数としては、小学校 31 件、中学校 58 件、高等学校 43 件、特別支援学校 0 件と、平成 29 年度と比較すると、公立小中学校及び県立高等学校で増加。

## 6 いじめの日常的な実態把握のために、学校が直接児童生徒に対し行った具体的な方法について (表5参照)

- 公立小中学校及び県立高等学校・特別支援学校の全ての学校において、アンケート調査等を実施。